

宮古木曜会 合唱団



第40回定期演奏会

～来し方をふりかえる24曲～

令和5年 **3**月**5**日(日)

14:00開演(13:30開場)

宮古市民文化会館大ホール



後援：宮古市芸術文化協会 / Harmony for Japan

御挨拶

宮古木曜会合唱団団長 川原田隆司

～行間の宇宙にはたくさんのものが眠っていて、

それを掘り起こし、ひたむきに、ひたすら一心不乱に日常をつぶして活動する～

小林研一郎

皆様、本日は私共の演奏会によろこそいらっしやいました。

昭和 37 年結成の「宮古混声合唱団」が昭和 41 年「宮古木曜会合唱団」と改称されて以来 57 年間、当合唱団は数々の指揮者に導かれながら活動してまいりました。

歴代の指揮者は、木村悌郎、東館祐宗、下河原正明、太田代政男、大島恵司、高橋勲、山田靖了、宮野哲美、小林清司、梅澤貴世久、片野嘉明、佐藤文子、君成田明希、佐々木幹雄（現在）、及川尚樹、佐藤由梨、佐々木駿（現在）（敬称略）、以上の方々です。素晴らしい先生方に恵まれて今日を迎えることができたことを、団員一同大変幸せなことと感じています。

さて、冒頭の言葉は小林氏が早稲田グリーンクラブOB「稲門会」演奏会の際に語ったもので、譜面には書かれていない作曲家の熱い思いを探り当て、それを表現するために練習を積んでいくことは、胸のときめく事だとおっしゃっています。「行間の宇宙」から何かを掘り起こせたらどんなに素晴らしいことでしょうか。しかしそのためには確実に「行」をつかむことが前提です。音楽で言えば、それは音程や発声でしょうか。難しいことですが基本を大切に、これからも楽しく、魅惑の「行間の宇宙」を求めていこうと思います。

～来し方をふりかえる 24 曲～・・・第 40 回という節目を迎え、今回は今まで木曜会が歌った曲を中心にステージを構成しました。皆様お馴染みの曲も多いことと存じます。どうぞ最後までごゆっくりと御鑑賞ください。

プロフィール

指揮者 佐々木 幹雄 (ささき みきお)



岩手県立水沢高等学校、岩手大学教育学部卒業。岩手県教育委員会による現職派遣にて同大学院修了（音楽教育）。声楽、宗教音楽を佐々木正利氏に、指揮を故佐藤功太郎、故中村伸一郎の各氏に学ぶ。第 3 回仙台バッハアカデミー（1988 年）ではヘルムート・リリング氏の指揮マスタークラスを修了。

1990 年代より矢中町、旧水沢市、旧胆沢町、盛岡市、宮古市にてベートーヴェン作曲「交響曲第 9 番」や奥州市では市民オペラ「ラ・ボエーム」「トスカ」の合唱指導を担ったり、各地市民文化祭等の参加者合同演奏を指揮したりするなど県内各地域に根ざした音楽活動を展開している。グルッペ・ベッヒライン演奏会（盛岡市）では C. モンテヴェルディ、J. S. バッハ、F. メンデルスゾーン、W. A. モーツァルトら作曲の宗教曲を指揮し好評を博す。

合唱・アンサンブル活動としては、国内外の世界的な指揮者やオーケストラとリハーサルや本番のステージを共にして生の音楽や音楽づくりを体験するのみならず、国内だけでなくドイツ、フランス、台湾への計十数回にわたる演奏旅行等では、声楽家であり合唱指導者である佐々木正利氏のもと、コンサートマスターやステージマネージャーとしても活躍している。

かつては飯岡夫人コーラス（旧都南村），おたまじゃくしと遊ぶ会（岩泉町），現在は宮古木曜会合唱団（宮古市），女声合唱団アンサンブル・コンフォーコ（奥州市）の各指揮者の他，県内各地の高校音楽部の指導，ドイツ・バロック音楽の演奏会やCDの楽曲解説も手がけている。合唱音楽研究会奥州を主宰，グルッペ・ベッヒライン，熊友会ヴォーカルアンサンブルの各会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのコンサートマスター。2012年から3年間は宮古市立千徳小学校に勤め，現在は奥州市立常盤小学校教諭（8年目）。盛岡市在住。

指揮者 / ピアノ 佐々木 駿 （ささき しゅん）



岩手県立久慈高等学校、岩手大学教育学部音楽科卒業。

大学在学時に岩手大学合唱団のチーフ・コンダクターを務める。

現在は高等学校音楽科教諭として音楽教育に従事する傍ら、岩手県内を中心に合唱指揮やオペラ、作曲、アンサンブルピアニスト等の音楽活動に取り組んでいる。

オペラではこれまでに仙台オペラ協会「魔笛」モノスタトス役、久慈市民参加型オペラ「椿姫」ジュゼッペ役を演じた他、熊友会ヴォーカル・アンサンブルのメンバーとして秋田アトリオン音楽ホール「こうもり」、仙台フィルハーモニー管弦楽団「蝶々夫人」等の合唱に参加した。

作曲活動としては、第32回TIAA全日本作曲家コンクール重唱・合唱部門審査員賞（最高位）、第6回K作曲コンクール第3位などを受賞した他、「虹の町で歌おう（しずくいし少年少女合唱団委嘱）」「150周年記念歌（久慈市立久慈小学校委嘱）」等を作曲している。

アンサンブルピアニストとしては、県内の合唱団、声楽・器楽奏者等と多数共演している。

声楽を佐々木まり子、佐々木正利の各氏に、ピアノを片山美也、重野和彦の各氏に師事。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、熊友会ヴォーカル・アンサンブル、仙台オペラ協会各会員。宮古木曜会合唱団指揮者、三陸混声合唱団うみねこ代表、岩手県立宮古高等学校教諭。

ピアノ / オルガン 藤田 淑子 （ふじた よしこ）



ヤマハアカデミー（現ヤマハ音楽院）卒業

これまで小笠原洋子、斉藤優美子、赤城真理、大久保和歌子、各氏に師事

ヤマハ音楽教室講師を経て、現在ヤマハ大人のピアノ教室、ピアノ教室を主宰
宮古女声コーラスの指導も行っている。

プログラム

～来し方をふりかえる24曲～

第一部

- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1. 大きな古時計 | 保富康午 作詞 / ワーク 作曲 / 小林秀雄 編曲 |
| 2. 落葉松 | 野上彰 作詩 / 小林秀雄 作曲 |
| 3. 箱根八里 | 鳥居忱 作詩 / 滝廉太郎 作曲 / 林光 編曲 |
| 4. ほらね、 | いとうけいし 作詩 / まつしたこう 作曲 |

指揮：佐々木駿 / ピアノ：藤田淑子

第二部

- | | |
|---|------------|
| 5. Kyrie (「レクイエム」より) | デュルフレ 作曲 |
| 6. Ubi caritas | デュルフレ 作曲 |
| 7. Jesu, meine Freude | ブクステフーデ 作曲 |
| 8. Weicht ihr trauer Geister (「モテット3番」より) | バッハ 作曲 |
| 9. Ave verum corpus | バード 作曲 |
| 10. All things bright and beautiful | ラター 作曲 |

指揮：佐々木幹雄

ピアノ：佐々木駿 (5,7) 藤田淑子 (10)

オルガン：藤田淑子 (5,7)

***** 休憩 (10分間) *****

第三部

- | | |
|---|--|
| 11. 赤とんぼ | 三木露風 作詞 / 山田耕柝 作曲 / 篠原真 編曲 |
| 12. おぼろ月夜 | 高野辰之 作詞 / 岡野貞一 作曲 / チルコット 編曲 |
| 13. すみれの花咲く頃 | 白井鐵造 訳詞 / デーレ 作曲 / 信長貴富 編曲 |
| 14. 春 ヴィニエ 作詩 (ノルウェー語)・キルムセ (独語改作) / グリーク 作曲 / ベック 編曲 | |
| 15. 雨降りお月 | 野口雨情 作詩 / 中山晋平 作曲 / 青島広志 編曲 |
| 16. 椰子の実 | 島崎藤村 作詩 / 大中寅二 作曲 / 林光 編曲 |
| 17. 恋人よ | 五輪真弓 作詞・作曲 / 加藤學 編曲 |
| 18. 雨 (「水のいのち」より) | 高野喜久雄 作詞 / 高田三郎 作曲 |
| 19. 祈り | 宮沢賢治 作詩 / 林光 作曲 |
| 20. アダジオ (「光はここに」より) | 立原道造 作詩 / 木下牧子 作曲 |
| 21. 今、ここに | 伊藤玲子 作詩 / 松下耕 作曲 |
| 22. Gifts | 越智志帆 作詞 / 越智志帆・薦谷好位置 作曲 / 大田桜子 編曲 |
| 23. 春に | 谷川俊太郎 作詞 / 木下牧子 作曲 |
| 24. 群青 | 福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生 (構成・小田美樹) 作詞
小田美樹 作曲 / 信長貴富 編曲 |

指揮：佐々木幹雄 / ピアノ：佐々木駿

あの頃の木曜会



年代不詳。結成の頃と思われます

合唱コンクールにどんどん出ていた頃。昭和58年、東北大会出場



第36回 全日本合唱コンクール東北大会 昭和58年10月22日-23日 東北大学川内記念講堂
 宮古木曜会合唱団(若手) 指揮 山田 靖 伴奏 長沢千佳子
 課題曲 / 華の花(時は流れても)より 作詩 山上瀧夫 作曲 池辺義一郎
 自由曲 / 懐しき歌より 落葉林で 作詩 立原道彦 作曲 小林秀雄



山田靖了、小林清司両先生を
 囲んで
 平成15年頃(盛岡)

「宮古市における合唱活動」(昭和28年～昭和57年)

東館祐宗(故人)

(宮古木曜会合唱団の生みの親、故東館祐宗さんが生前記録されていた貴重な資料です。

宮古市で合唱活動が本格的に始まったころの様子が詳細に記載されています)

西暦	和暦	月	日	経緯	演奏会名
1953	昭28			宮高音楽部OB20数名により合唱団結成される。名付けて「コール・エコー」という。指揮者は宮高教諭、本田幸八(昭和57年没)氏。宮高音楽祭などに出演。	
1957	昭32			宮小教諭、木村悌郎氏が指揮者となり、毎週金曜日宮小音楽室で定期練習を行う。	
1958	昭33	10		於愛宕小学校(以下、愛小)講堂	コール・エコー第1回定期演奏会
1959	昭34	10		〃	コール・エコー第2回定期演奏会
1960	昭35	6		チリ地震津波災害のチャリティ・コンサート開催。於愛小講堂	
		8		文部省主催「全国青年大会」音楽部門の県代表となり、11月全国大会に出場。 (1stT:金子幸男、2ndT:木村悌郎、Bari:堀内豊、Bass:東館祐宗) 準優勝となる。	
		10		於愛小講堂	コール・エコー第3回定期演奏会
1961	昭36	6		劇研「麦の会」との共催で「合唱と演劇の夕べ」を開く。於愛小講堂。	
		10		岩手県合唱連盟結成され、その記念合唱祭に参加出演。於県公会堂ホール。	
		10		於宮古小学校体育館(3月落成)	コール・エコー第4回定期演奏会
		11		第1回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
1962	昭37	3		指揮者木村悌郎氏、岩大附属小へ転任により、東館祐宗氏、指揮者となる。	
		3		宮古水産高OBによる愛唱会「はまなす」と合併統合して、名称を「宮古混声合唱団」とすることに決定。	
		4		京都東本願寺主催の第1回音楽法要(親鸞聖人700回忌遠忌記念)に参加出演。 16名参加。於丸山野外音楽堂	
		11		第2回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
1963	昭38	6		宮古二中教諭下河原正明氏、指揮者となる。東館祐宗氏は会長に。	
		11		第3回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
1964	昭39	9	初旬	京成大谷大学男声合唱団来演し、賛助出演する。於宮古小学校体育館。	
		11		第4回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
1965	昭40	9		盛岡メンルコール来演し、賛助出演する。於宮古小学校体育館。	
1966	昭41	5		「宮古混声合唱団」を「宮古木曜会合唱団」と改称する。	
		10		第1回定期演奏会(通算5回目)を開催。28名。於宮古小学校体育館。	宮古木曜会合唱団第1回定期演奏会
		11		第6回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
1967	昭42	10		第2回定演。37名。於宮古小学校体育館。	宮古木曜会合唱団第2回定期演奏会
		11		第7回市民音楽祭に参加出演。於宮古小学校体育館。	
		12		歳末助け合いチャリティ・コンサートを開く。於宮古幼稚園	
1969	昭44	5		宮古二中教諭(新任)太田代政男氏、指揮者となる。	
		8		釜石混声合唱団来訪。浄土ヶ浜で交歓の集いを持ち、花巻混声合唱団を加えて 三市合同の演奏会を開かんと約す。	
		12		釜石混声合唱団、花巻混声合唱団、宮古木曜会合唱団の合同による第一回三市 合同演奏会(コーラス・コンサート)を催す。於釜石市民会館	第1回三市合同演奏会(コーラス・コンサート)

1970	昭45	1	第24回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県教育会館ホール	
		3	太田代政男氏、岩大付属小へ転任するも毎週木曜日夜に指揮を続ける。 後任(二中)の大島恵司氏は副指揮者として協力。	
		6	20 第3回定演。35名。於宮古小体育館	宮古木曜会合唱団第3回定期演奏会
		7	於宮古小体育館	第2回三市合同演奏会(コーラス・コンサート)
		8	指揮者太田代氏より大島氏に正式にバトンタッチされる	
		8	老人ホーム清寿荘を慰問演奏し、喜ばれる。	
		11	7 宮古市民文化会館の建設を進める慈善演奏会。於宮古小体育館	慈善演奏会(宮古高校音楽部出演)
1971	昭46	1	30 第25回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於教育会館ホール	
		5	於花巻市公民館	第3回三市合同演奏会(コーラス・コンサート)
		8	盛岡北声合唱団来演につき賛助出演。於宮古小体育館	
		8	区界高原(杜園)に2日間の合宿練習	
		9	18 第4回定演。31名。於宮古小体育館	宮古木曜会合唱団第4回定期演奏会
		10	3 第22回全日本合唱コンクール岩手県大会に出場。於県教育会館ホール	
1972	昭47	1	29 第26回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		4	週2回(火・木)の練習となる	
		10	第23回全日本合唱コンクール岩手県大会に出場。東北大会出場権を得る。 於県民会館中ホール	
		10	第23回全日本合唱コンクール東北大会に出場。39名。於宮城県民会館	
		11	11 第5回定演。31名。於宮古小体育館	宮古木曜会合唱団第5回定期演奏会
1973	昭48	1	28 第27回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		3	指揮者大島氏、岩泉中学校へ転任。代わって太田代氏、毎週木曜夜に盛岡より通って 指揮者を務めることに決まる	
		8	3~5 県合唱連盟主催 第一回岩手県合唱指導者講習会開催 於宮古高浜小学校	
		9	23 第6回定演。31名。於宮古小体育館	宮古木曜会合唱団第6回定期演奏会
		11	3 市内亀岳小中学校慰問演奏会	
1974	昭49	1	27 第28回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		3	23 第3回宮古市青少年活動展に出演 於宮古市中央公民館	
		10	19 第7回定演。25名。於宮古小体育館	宮古木曜会合唱団第7回定期演奏会
1975	昭50	1	26 第29回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
1976	昭51	1	25 第30回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		11	市民文化会館落成記念演奏会が松田晃氏指揮により開催。6月末から毎週土曜日、 「ハレルヤを歌う会」として、200人(うち大人172人)が参加	
1977	昭52	2	19 第8回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第8回定期演奏会
		5	宮古高校教諭として転入せる高橋勲氏、指揮者となる	
1978	昭53	1	31 第31回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		2	26 第9回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第9回定期演奏会
		12	10 第10回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第10回定期演奏会
1979	昭54	8	18 於宮古市民文化会館大ホール	サマーコンサート
		12	8 第11回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第11回定期演奏会
1980	昭55	1	29 第33回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		4	盛岡二高より宮古高校音楽教諭として赴任された山田靖了氏を指揮者に迎える。 (高橋勲氏は水沢高校に転任)	
		12	6 第12回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第12回定期演奏会
1981	昭56	1	25 第34回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		7	5 市内の合唱団9団体による演奏会。	第1回サマーコンサート
		11	28 第13回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第13回定期演奏会
1982	昭57	1	27 第35回岩手芸術祭参加「新春コーラス・コンサート」参加出演。於県民会館中ホール	
		7	4 市内の合唱団体による演奏会。	第2回サマーコンサート
		12	11 第14回定演。於宮古市民文化会館大ホール	宮古木曜会合唱団第14回定期演奏会

メッセージ～歴代指揮者の皆様から～

なぎさ歩めば きこゆるは 遠き潮鳴り、
～宮古木曜会活動再開した頃のこと～

太田代 政 男
(岩手県合唱連盟顧問)



宮古木曜会合唱団第 40 回記念定演おめでとうございます。そして、川原田隆司団長をはじめとして団員の皆様のこれまでの取り組みに感謝と敬意を表します。

さて、宮古木曜会と聞けば、私にとっては、善林寺のご住職(故)東館祐宗さんとのことが鮮明に蘇ってまいります。今から 50 年以上も前のことですが…。

昭和 44 年 4 月、私は、新米音楽教師として宮古第二中学校に赴任しました。赴任にあたって恩師の千葉了道先生から、「宮古には、善林寺のご住職が代表をしている木曜会という合唱団がある。赴任したら一緒に合唱しなさい。」との命を受けました。そこで、着任早々、木曜会の指導者である宮古商高の下河原正明先生に赴任の挨拶と木曜会に参加したい旨を申し上げた。しかし、1カ月たっても連絡がこない。そこで連休明けの5月6日、ドキドキしながら善林寺さんにお電話を差し上げました。電話口での最初の住職の声は、低音で、ちょっぴり気難しそうでしたが、私が合唱の話をした途端、そのトーンが明るくなり、ニコニコの表情が感じ取られました。そして、活動休止の事情を話された後、「是非再開できるようにしますから」との固い決意表明。大変うれしい気分になったことを思い出します。

そして、翌日、用務員さんが、職員室から一番遠い音楽室に慌てて駆け込んできて、「先生、善林寺の“おっすさん”が、先生に面会したいとお出でになってます。校長室にお通しました。」とのこと。そして、東館祐宗ご住職と対面し、すっかり意気投合。

その中で「3年間ほど休止していた木曜会を再スタートさせたい。については、あなたを指導者をお願いしたい。断りませんよね。」との言葉に、勿論二つ返事で了承。同席の佐々木武夫校長さんも「善林寺の“おっすさん”からのお願いだから、断るわけにいかないね。」との励ましの言葉もいただきました。早速、5月8日木曜日の夜、初顔合わせの菊池結子さん、坂下信子さん、田村某さん、それに東館さんと私の 5 人で宮古木曜会は復活しました。最初にハマった歌は、「NHK みんなの歌」でお馴染みになった、スピリチュアル「空を見上げて(Rock my Soul)」。少人数でしたが、どこか夢の広がるさわやかな歌声だったことを鮮明に覚えています。

活動再開すると、メンバーが一人、また一人と加わり、あっという間にバランスもまずまずの混声合唱団になりました。練習後、喫茶店で合唱談義。ある時は、夜の月山までドライブ。月山から眺めた宮古の美しい夜景や外海の幻想的な漁火は、今も鮮明に心に焼き付いています。その夏には、浄土ヶ浜で、釜石混声合唱団との交流会をしたこと、日本を代表するカルメンの歌手、成田絵智子さんのバックコーラスをつとめたこと等思い出は尽きません。しかし翌年には 1 年で盛岡への転勤。挨拶状には、次のように記しました。「なぎさ歩めば きこゆるは遠き潮鳴り、宮古は本当に良いところでした。」

宮古木曜会での思い出

大島 恵司
(花巻東高講師・元宮古二中教諭)



第 40 回定期演奏会開催誠におめでとうございます。プログラムへメッセージを掲載すること、50年あまり前のことですので、だいぶ記憶が薄れておりますが、当時のことを少し思い出してみました。

昭和45年国立音楽大学を卒業して、教職の道についたのが、宮古二中の初任者音楽教師でした。太田代先生の後を引き継ぐこととなり、また、一般の合唱団の指導(宮古木曜会)も引き継ぐこととなりました。

光岸地の善林寺和尚(東館)さんとそれ以来長いお付き合いをすることとなりました。和尚には大変お世話になりました。分庁舎の後ろの公民館での練習、お寺で練習することもありました。当時定期演奏会の会場は宮古小学校の体育館でした。団員と和尚のお子さんたちと一緒に椅子並べをしたことも思い出です。

演奏での思い出は、やはりコンクールの出場です。昭和 46 年 10 月 23 日全日本合唱コンクール東北大会(宮城県民会館)での演奏、忘れ

ることができません。曲目は福井文彦作曲の「混声合唱組曲…空・道・河」でした。合唱コンクール東北大会への出場(一般の部)は、私にとってこの一度だけあります。

宮古海員学校での演奏会など、いろいろ活動したことが思い出されます。合唱練習後の喫茶店(店名忘れましたが)での話し合いはとても楽しく次の日の授業の活力にもなりました。またその後夜遅くにもかかわらず、和尚の車で教員仲間の佐々木郁二さんを山田町まで送りましたが、その途中太平洋に輝く漁火の光が思い出されます。

私の第二のふるさととも言える宮古での活動は、その後の音楽活動におおいに役立つこととなり、今日に至っております。これも宮古木曜会の皆様方のおかげと感謝いたしております。現在は花巻東高校で非常勤講師として、音楽の授業と吹奏楽の指導をしており、若い生徒さんからエネルギーをもらい元気でおります。

改めまして、ご盛会をお祈りし、これにてごあいさついたします。

第 40 回定期演奏会に寄せて ～宮古木曜会の宝箱～

山田靖了

(岩手県合唱連盟名誉会長・全日本合唱連盟常務理事・元宮古高校教諭)



第 40 回定期演奏会誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

2011 東日本大震災、幾多の困難の中、「生きる力」「心の糧」「励まし」として歌い続けてこられたそのお気持ちを察するに余りあるものがあります。また新型コロナまん延により歌うことを禁じられ、今 with コロナとして三密の回避に努めマスクをして歌える事はせめてもの救いと思います。一日も早く当たり前の日常に戻り、争いの無い平和な暮らしの中で、声高らかに歌える事をと願うものです。

私には宮古木曜会の宝箱があり、沢山の思い出が詰まっています。

昭和 55 年 6 月某日、中央公民館近くの喫茶店で団長日野輝夫先生(故人)と梅澤貴世久さん(故人)、東海林隆幹先生に囲まれ「木曜会の指導を」と懇願されました。余裕のない日々でお断りしましたが、この緊迫から逃れる術は唯一練習会場にご一緒するしかありませんでした。高田三郎の「心の四季」から「風が」を聴かせて戴き、ついコメントしてしまい、これが災い(?)お引き受けした形になりました。面白いらしいとの噂からメンバーも増え、中には赤ちゃん連れのご夫妻もおられました。次第に若々しい声と合唱への熱い想い、チームワークの良さに惹かれました。嬉しい事に昭和 56 年、宮古水産高校にコール M の宮野哲美先生、57 年に宮古商業高校に盛岡コメット混声合唱団副団長小川三雄先生(故人)が赴任、即合唱団に加わって下さり、益々活動が広まりました。磯鷄公民館での練習後は小川先生宅に殆どのメンバーがお邪魔し、美味しいコーヒーを戴き合唱談義に花を咲かせ団員の絆がより深まり、練習日が待ち遠しくなりました。また、定期演奏会でのお客様も増え、打ち上げも盛り上がり二次会三次会と続き、冗談交じりに「いつそのことホテルに泊まりがけで」と話したところ、実現しまさに楽しさ満載でした。

活動の柱は定期演奏会と市内のコンサートでした。昭和 58 年 1 月、岩手県民会館での合唱連盟主催「新春コーラスコンサート」の出場を機に、「合唱コンクールに出しましょう。」と話したところ「実力がありません。」との事。「いつ上手になるの? 下手だから出しましょうよ。」因らずもその年からコンクール東北支部大会に選ばれ福島、青森、秋田での大会に出場、他県の演奏を聴取し、感動と刺激も得ながら楽しい旅行気分も味わいました。また、昭和 59 年 7 月、お世話になっていた栗山文昭先生(合唱指揮者)指導の千葉大学合唱団の「サマーコンサート in 宮古」をお引き受けし賛助出演。ピアニスト青島広志先生(作曲家)・学生さん達と交歓を深め、60 年 6 月には盛岡在住で中学・高校の同級生、黒澤和雄、千賀子夫妻の「箏リサイタル」で、夫妻による 20 弦と 17 弦伴奏により「浜千鳥」「浜辺の歌」「椰子の実」(加藤學先生編曲)を演奏するユニークな企画も実現しました。60 年の第 17 回定期演奏会から宮野先生の畏友加藤學先生(故人)にニューミュージックの編曲、ご指導と客演指揮をお願いし大きく飛躍、同年 11 月には県の派遣事業として住田町文化祭出演を依頼されるなど、貴重な体験もありました。極めつけは昭和 61 年 12 月の宮古市民文化会館創立 10 周年記念「ベートーヴェン第九演奏会」、運営の中心は小本完さん(故人)を代表とする宮古木曜会の皆さんでした。

宮古で 6 年間、合唱三昧の日々を過ごさせて戴き、61 年 4 月後ろ髪引かれる思いで一閃一高に転勤しました。今なお宮古木曜会の皆さま、宮古から離れて二日会、都南混声合唱団、合唱団アミューズ等各地の合唱団で活躍されておられる方々にも親しくして戴いており非常に嬉しい限りです。

結びに指導センス抜群の佐々木幹雄先生、新進気鋭の佐々木駿先生、経験豊かな川原田隆司団長のもと、今日の演奏会を機に、益々充実発展されますよう祈念申し上げます。

7年間の思い出

宮野 哲美

(コールM会長・元宮古水高教諭)



宮古木曜会合唱団の第40回定期演奏会、おめでとうございます。

私が在籍したのは7年間です。昭和56年4月に宮古水産高校の音楽教師として赴任。登校初日に、当時の団長だった日野教頭先生に肩をたたかれて団員となりました。日野先生は私の転勤時には校長先生でした。

指揮者の山田先生のもとで充実した5年間を過ごし、先生の転勤に伴って昭和63年の春まで2年間指揮者を務めました。木曜会中心の宮古第九を歌う会など、良い思い出ばかりです。船越で合宿をしたり、川井方面に遠足をしたりと話題は尽きません。練習後に小川団長の家にみんなで行って話したのはつい最近のことと錯覚します。入りきれない人は玄関に立っていましたよね。宮古に居た7年間は日々木曜会と一緒に過ごしました。

山田先生の発案で大学同期の加藤學先生に編曲を依頼して、ニューミュージックを中心に40曲あまりを歌ったのも望外の喜びでした。

実は転勤後はほとんど木曜会に顔を出してなくて、唯一歌ったのは木曜会の男声部とOBである二日会との合同メンバーで釜石フィルの演奏会に出たくらいでしょうか。あ、一度定演に行き、打ち上げにも出ました。その後は宮古に行くことがあっても木曜会や津軽石にも顔を出していません。社会人としての混声合唱経験は宮古木曜会合唱団だけ。思い入れが強かった分だけ、今は行くことが出来ていません。

でも、木曜会での活動経験は今も私の合唱活動の支えです。

今後ますますの発展をお祈りしています。

縁…そして縁…それが木曜会の原動力。

片野 嘉明

(西和賀高校教諭・元宮古商高教諭)



初任の地一関で山田靖了先生にご指導賜り、その後、宮古への異動となります。異動の際、山田先生から宮古木曜会の紹介を頂き、引越したその日、市役所にいた梅澤貴世久先生を訪ねて、木曜会に入団しました。

梅澤先生が異動されたのち、川原田隆司先生とご一緒に、なんとか木曜会を盛り立てようと努力しました。アンサンブルコンテストに果敢に挑戦し、皆さんで前日から盛岡で合宿(兼飲み会)して臨んだのが、一番の思い出です。

木曜会のためにはしっかりした指導者が必要でした。当時、宮古高校に赴任されたばかりの佐藤文子先生を川原田先生と一緒に訪ね、指導のご承諾を頂きました。それが山田先生に続く、木曜会第二の黄金期の始まりだったと思います。

その後、宮古から異動することとなりましたが、ある演奏会の後に何人かの男性に取り囲まれました。「二日会です」。どこの怖い団体かと思ったら、皆さん元木曜会だと言うのです!団長の東海林隆幹先生がこれまた川原田先生のような素晴らしい方で、断る理由もなく、北上に居を構えた私の木曜会との縁はさらに続いています。

さて、木曜会の40回目の定期演奏会、心からお喜び申し上げます。聴衆がいて成り立つ合唱団にとって、最も重要なイベントは定期演奏会です。宮古木曜会が沿岸屈指の合唱団として、40回目の定期演奏会を迎えたことに畏敬の念を禁じえません。川原田団長を初め、関係の皆さんのご尽力あってこそ、今日の演奏会だと思います。その根底にあるのは、合唱を愛する方々の熱い、そして心温かい縁であることは、木曜会に参加した経験のある者にとって、自明の理でありましょう。

宮古木曜会合唱団第40回定期演奏会に寄せて

佐藤文子

(盛岡第四高校指導教諭・元宮古高校教諭)



私は、宮古高校に赴任していた平成13年から平成21年までの8年間、指揮させていただきました。実は宮古に赴任することが分かった時点で、かつて指揮をされていた山田靖了先生から、宮古に行くなら、宮古木曜会という合唱団があるから、是非指揮をした方が良く、既に勧められていたのですが、私は前任校の盛岡市立高校で初めて音楽部の顧問となったような、まだ合唱指導駆け出しでしたので、一般団体の指揮など無理だと思っていました。そんな折、代表の川原田先生と当時指揮をされていた片野先生が揃ってわざわざ来校され、直接私に指揮の依頼をされました。その熱心さとお人柄も相まって、私は、自分の勉強のためにもなると、お引き受けした次第でした。

定期演奏会は第23回(平成15年)から第27回(平成19年)の5回指揮させていただきました。当時の木曜会の立役者だった梅澤貴世さんと小本完さんという方々が相次いで亡くなり、その追悼の意味で、最初の2回は演奏会を開いたので、演奏会名も「第23回演奏会」「第24回演奏会」というふうに「定期」という文字を入れませんでした。また「定期」の縛りが無い方が精神的にも良いのではないかという考えもあったと記憶しています。演奏曲は多岐に渡っていましたが、パレストリーナのミサ・プレヴィス、フォーレのレクイエム、ジョンラターのレクイエム、バッハのモテット第3番、などの名曲にも取り組みました。ヴァイオリンの梅村先生にお願いし、小編成の弦楽合奏の伴奏で演奏するなど、これら難易度の高い曲に取り組むことで私は大いに成長させていただいたと感じています。忘れられない思い出も数々あります。木曜会の皆様のベルベットのような柔らかな美しい声に感動した最初の練習、美味しいお寿司でもてなしを受けた歓迎会、宮古を去る時の気持ちのこもった送別会。練習後カラオケで楽しんだ事も懐かしい思い出ですが、何より木曜会の皆様の優しさが一番の思い出です。宮古木曜会を通した多くの方々との触れ合いが、あの頃の私の活力でした。お陰で、私にとって宮古は第二の故郷となりました。若輩者の私を成長させてくれた、宮古木曜会合唱団には、感謝のこぼしがありません。川原田団長はじめ、団員のみなさま、本当にありがとうございました。また是非一緒出来れば嬉しいです。本日は、第40回定期演奏会おめでとうございます。

宮古木曜会合唱団第40回定期演奏会に寄せて

君成田明希

(元宮古高校講師)



本日は、宮古木曜会合唱団40回目の演奏会の開催、誠におめでとうございます。

ここ15年を振り返りますと、東日本大震災やコロナ禍など、様々な困難がありました。このような逆境に屈することなく合唱に情熱を傾け、40回目の演奏会を迎えられたことに、敬意を表します。

宮古木曜会は、家族のようにあたたかく居心地の良い合唱団です。人生の先輩方が、未熟者の私を受け入れてくださり、一緒に音楽を作ってくださいました。

特に思い出されるのは、第29回演奏会です。震災の影響で山口公民館で開催されました。家庭や職場が大変な状況にありながらも、練習時間を確保し、演奏会を開催することは、並大抵のことではなかったと思います。フォーレの「レクイエム」を演奏する際には、県内外から縁のある方々が参加してくださいました。アンコールのフィンランディアでは、思いかげず涙を流したことを思い出します。グリーグの「春」を演奏できたことも嬉しかったです。本当に貴重な経験をさせていただきました。

いつの日か、また皆様とご一緒できることを切に願います。最後になりましたが、宮古木曜会合唱団のますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

！

第40回宮古木曜会定期演奏会に寄せて

及川尚樹

(盛岡一高教諭・元宮古高校教諭)



40回目の記念演奏会、まことにおめでとうございます。継続し続けることが難しい一般の合唱団において、今日まで温かく美しいサウンドを披露し続ける宮古木曜会の皆様に、ただただ「ブラボー!!」です。

木曜会には5年間お世話になりました。皆様に育てていただいた、という気持ちしかありません。特別資質も経験もない20そここの男がやってきて、さぞかし不安に思われたことと思います。それでも表立って不平不満も言わず、わが子の様に温かく接していただいたからこそ、今の私があると思います。同じタイミングで幹雄先生が宮古にいらっしやって、また大きな学びを得ることができたことも、私にとって非常に重要なことでした。私の合唱体験の礎は、木曜会の音楽性によって出来ています。改めて振り返っても、大きな財産です。

寄稿するにあたり、当時の楽譜やプログラムを掘り起こしてみました。震災後で演奏会の開催場所はジブシー状態でしたが、芸術祭など多くの演奏機会に恵まれていたように思います。個人的には、「水のいのち」がすごく心に残っています。難しかった!!いつかベンジしたい曲です。「蹄鉄屋の歌」も印象的な曲です。思えば、1年で本当に多くの曲に取り組む合唱団ですよ。それでも高いクオリティを演奏できるのは、木曜会の歴史と皆さんの歌心がなせる業なのだと思います。京都にも歌いに行ったり(群青、今思い出しても涙が出ます)、国体のイベントにも参加しましたね!青いスカーフ?まだ持っています。思い返せば返すほど、皆さんとたくさん楽し過ぎていただいたんだな、と感じています。

宮古を離れて、もう6年が経とうとしています。宮古にいた時間より離れた時間の方が長くなっていることに驚きを隠せません。コロナ禍、合唱人口減少と、存続させることが難しい局面を迎えています。宮古には木曜会という素晴らしい合唱団がある」という事実をどうか絶やすことなく、いつまでも歌い続けてほしいと思っています。私の合唱人生と木曜会の未来が再度クロスすることを信じて…その時は、少しは成長した姿をお見せできればと思います。

第40回宮古木曜会定期演奏会に寄せて

佐藤由梨

(不来方高校教諭・前宮古高校教諭)



宮古木曜会合唱団の皆様、第40回定期演奏会の開催、誠におめでとうございます。

私は昨年までお世話になっておりましたが、皆さんと過ごした時間はかけがえのない時間であったと今、改めて感じております。「コロナウイルスの感染拡大」という状況の中で、集まって歌うことが許されない時間も共に経験させて頂きました。長期にわたる練習の中止、周りの状況を鑑みながらのさぐりさぐりの練習、練習が無くなったことによる自主練習の日々。それでも歩みを止めずに開催してきた定期演奏会。皆さんの音楽に対する前向きな姿勢、考え方にいつも救われていました。年齢も性別も、仕事もいろいろ…そんな多様な人たちで、時間を共有して音楽を創り上げることがどれほどかけがえのないものなのかを知りました。初めはガチガチに緊張していた練習でしたが、本当に温かく楽しい時間を過ごすことができたのも皆さんのおかげであったと思っています。またいつか、ご一緒できれば幸いです。

様々な時代の変化があり、メンバーも変わっていく中で、大切にしているものを引き継ぎながら活動している宮古木曜会合唱団のこれからのますますの発展をお祈りしております。

宮古木曜会合唱団 第40回定期演奏会 外国語曲の対訳集

第2部

デュルフレ作曲《Ubi caritas》

Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Congregavit nos in unum Christi amor.

Exsultemus et in ipso jucundemur.
Timeamus et amemus Deum vivum.
Et ex corde diligamus nos sincero.
Ubi caritas et amor, Deus ibi est.
Amen.

《慈しみあるところに》…第32回

慈しみと愛のあるところ、神はそこにおられる
わたしたちはひとつに集まる、キリストの愛のもとに

歓び踊れ、この喜びによって。
畏れつつ熱愛せよ、生きておられる神を。
そしてわたしたちも心から清く愛し合おう。
慈しみと愛のあるところ、神はそこにおられる。
アーメン。

デュルフレ作曲《Requiem》より

《Kyrie eleison》

Kyrie eleison,
Christe, eleison,
Kyrie eleison.

《主よ、憐みたまえ》…第38回

主よ、憐れみください、
キリストよ、憐れみください、
主よ、憐れみください。

ブクステフーデ作曲《Jesu, meine Freude》より

《Jesu, meine Freude》 第1曲

Jesu, meine Freude, Meines Herzens Weide,
Jesu, mein Begier,
Ach wie lang, ach lange Ist dem Herzen bange
Und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
Außer dir soll mir auf Erden
Nichts sonst Liebers werden.

《イエスよ、わが喜び》…第36回

イエスよ、わが喜び、わが心の糧、
イエスよ、わが欲望。
ああ、どんなに久しく長い間、私の心は恐れ、
あなたを慕い憧れていたことでしょう！
神の子羊、わが花婿、
あなたを除いてこの世には
愛すべきものは他にありません。

(フランク作『イエスよ、わが喜び』第1節)

バッハ作曲《Jesu, meine Freude》より

《Weicht ihr trauer Geister》 終曲

11 Choral
Weicht, ihr Trauergeister,
Denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
Muß auch ihr Betrübten
Lauter Zucker sein.
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
Dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesus, meine Freude.

《退け、悲しみの霊たちよ》…第30回

11 コラール
退きなさい、悲しみの霊たちよ、
なぜなら、喜びの主である
イエスがここに入ってくさるからです。
神を愛する者には
悲しみもまた、
大きな幸せなのです。
既にここでわたしが嘲笑と侮辱にじっと堪えられるのも
あなたもまた苦しみの中に留まって下さるからです、
イエスよ、わが喜びよ

(フランク作『イエスよ、わが喜び』第6節)

バード作曲 《Ave verum corpus》
Ave verum corpus, natum de Maria Virgine,
vere passum, immolatum in cruce pro homine:

cuius latus perforatum unda fluxit sanguine:
esto nobis praegustatum in mortis examine.

O dulcis, O pie, O Jesu
fili Mariae miserere mei.

Amen

ラター作曲 《All things bright and beautiful》

All things bright and beautiful,
All creatures great and small,
All things wise and wonderful,
The Lord God made them all.

Each little flower that opens,
Each little bird that sings,
He made their glowing colours,
He made their tiny wings.
※All things bright and beautiful . . .

The purple headed mountain,
The river running by,
The sunset and the morning,
That brightens up the sky;

The cold wind in the winter,
The pleasant summer sun,
The ripe fruits in the garden,
He made them every one:
※All things bright and beautiful . . .

He gave us eyes to see them,
And lips that we might tell,
How great is God Almighty,
Who has made all things well.
※All things bright and beautiful . . .

《めでたし、まことの御体よ》 …第35回

めでたし、処女マリアから生まれ、
人類のために苦しまれ、

十字架で犠牲になられたまことの御体よ、
その刺し貫かれた脇腹から、血が流れた。

死の審問にあたっての我々のために、

先んじて味わう方とおなりください。
おお甘く、おお敬虔な、おおイエスよ、
わたしのかわいそうなマリアの息子よ。

アーメン

《全てのものは輝き美しい》 …第37回

※全てのものは輝き美しい
全ての大小の生き物たち
全ての賢明なるすばらしきもの
神はその全てを作ってくださった

開く小さな花ひとつひとつ
歌う小さな鳥一羽一羽
神はその美しき色を作り
神はその小さな翼を作ってくださった
※ (繰り返し)

紫色の頂をもつ山
川は流れ
夕焼けと朝焼けに
空は輝く

冬の冷たい風
夏の心地よい陽光
庭に実る果実
神はその全てを作ってくださった
※ (繰り返し)

神はそれらを見るための目と
神の偉大さを伝える唇を我々に与え
神の全能はなんと偉大なのでしょう
これら全てを作ってくださるとは
※ (繰り返し)

C. F. Alexander (1823-95)

第3部

グリーグ作曲《Der Frühling》 作品33より

1.

Einmal noch konnte ich schaun,
wie im Lenz der Winter muß fliehen,
einmal noch sah ich den Wildkirschenbaum
im Frühling erblühen.

Einmal noch sah ich, vom Eise befreit,
die Bergbächlein fließen,
hörte den brausenden Schmelzwasserstrom
ins Tal sich ergießen.

Einmal noch ich die Blumen im Grün
der blühenden Wiesen,
hörte die Drossel mit jubelndem Sang
den Sommer begrüßen.

《過ぎにし春》…第29回

1.

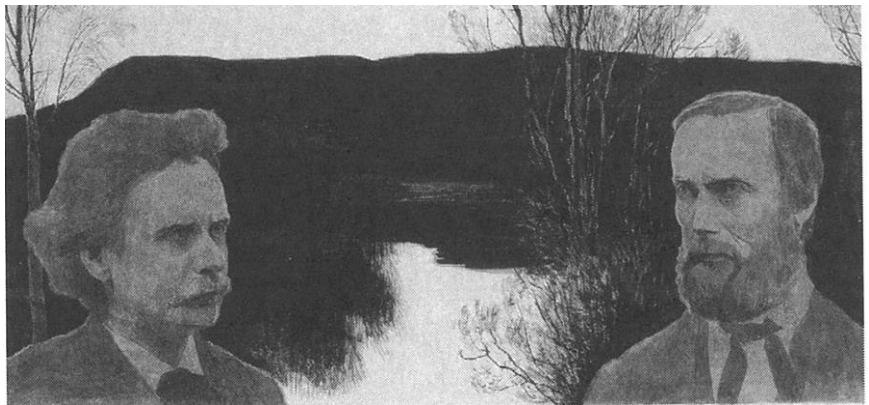
再び、わたしは見る事ができたのです
春には、冬が去らなければならない様を
再び、私は山桜を見たのです
春にそれが花を咲かせた様を

再び、私は見たのです、氷から溶け出た
山の小川が流れる様を
雪解け水のざわめきを
谷に流れ込む音を、聞いたのです

再び、私は緑の中の花を
花咲く草原を見たのです
ツグミの喜びの歌を
夏を迎えるその歌を聞いたのです

Text: A. O. Vinje

Deutscher Text: Heidi Kirmße



グリーグ(作曲) と ヴィニエ(作詩)

メンバー紹介

宮古木曜会合唱団

指揮者 佐々木幹雄 佐々木駿 / ピアノ 藤田淑子 佐々木駿

ソプラノ 大久保秀子 大西和子(札幌市) 富樫亮子 芳賀志津子
古館陽子 吉田真弥子

アルト 伊藤実知子 大坂久子 小林弘江 斉藤絹子 高岩厚子 中島颯希
中村登志江 武藤歩子 宮本正子 村上千賀子

テノール 伊藤大樹 佐々木駿 千葉行有(矢巾町) 舞田寛武

バス 川原田隆司 木村茂男 東海林隆幹(盛岡市) 花館充章
武藤秀郷 山内健広

ステージマネージャー 高玉智晴



令和4年3月13日 第39回定期演奏会 宮古市民文化会館大ホールにて

団員募集!

練習日時 毎週木曜日 19:00~21:00

練習会場 山口公民館 会費 2000円 / 月

問い合わせ : TEL 0193-87-3099 富樫まで